

『ビジネスライブラリアン講習会フォローアップ研修 in 多治見』開催報告

開催日時：平成 26 年 6 月 20 日（金）

14:00～17:00

開催場所：多治見市図書館、カフェ温土

開催趣旨：

平成 26 年 2 月 24 日から 3 日間開催された「第 12 回ビジネスライブラリアン講習会（会場：愛知大学名古屋図書館）」の受講生 12 名が参加し、ビジネス支援サービスを実践している多治見市図書館を主会場に、『ビジネスライブラリアン講習会フォローアップ研修 in 多治見』を開催しました。

開催概要

冒頭、竹内利明会長のご挨拶があり研修が開始されました。

最初に熊谷雅子多治見市図書館長、同館郷土資料室職員、陶磁器関連資料担当の司書の方から、多治見市図書館の地域資料を中心とした図書館活動についての説明がありました。地元商店街と協働で各商店の成り立ちを紹介するパネル展示を開催したこと、展示資料をもとにしたまち歩きイベントを開催したこと、美濃焼を中心に陶磁器に関する郷土資料を収集していることなど地域に根づいた図書館活動の事例報告がありました。地場産業である陶磁器に関する資料収集では、陶磁器関係の図書・専門雑誌や美術書の収集だけでなく展示会図録やチラシ、窯元の商品カタログなどを含めたコレクションとなっています。また陶磁器関連の専門雑誌に掲載されている展覧会情報欄をもとに、国内の美術館や博物館に直接収集を依頼していること、人間国宝及び美濃陶芸協会会員あるいは地域の住民から積極的に資料を寄贈していただいているこ

とは特筆すべきことです。このように収集された資料は、地元の若手陶芸家の創作活動に大変役立っています。

続いて多治見市図書館の見学をさせていただきました。2 月の講習会でも話題となった陶磁器関連資料コーナーの排架や棚づくりは、多くの見るべきものがあります。また郷土資料室が収集・保存している資料は、陶磁器組合や観光関連の印刷物、看板などにも提供しています。なかでも古い資料は商業・まちづくり・観光案内にも活用されているとの説明がありました。さらに郷土資料室には、写真資料が 3 万点以上所蔵しているのも特徴的です。最後に特別に貴重資料が所蔵されている地下書庫を見学させていただきました。貴重資料の中にある江戸時代に描かれた古地図は、頻発する地元の土岐川の氾濫に備えて描かれたもので、近年修理をしたとはいえ鮮やかな色が復元されています。郷土資料の保存を熱心に進めていることが伺えました。

図書館見学終了後、場所を第 3 セクターである多治見まちづくり株式会社（多治見市、多治見商工会議所、地元金融機関、地元商店街が出資）が運営する「うつわとごはんカフェ温土」に会場を移し、多治見市図書館を利用している若手陶芸作家のご夫妻と 1 時間ほど懇談をしました。受講生からは、美濃焼、地域、図書館に関する活発な質問があり、お店の雰囲気と相まって終始和やかに懇談は進みました。ご主人からは「陶芸は技法が重要なので、専門的な資料を参考にする必要があります。図書館資料は貴重です」とのお話が、奥さまからは「作品の絵付デザインの参考に布等の資料

もよく借ります」と陶磁器資料以外の図書館資料も創作活動の手助けになっていることが伺えました。

多治見市図書館見学と利用者へのヒアリングを終え、名古屋駅前に移動した後、仕事等でフォローアップ研修へ参加できなかった研修生を含め 15 名で開催した懇親会は大いに盛り上がりました。

今回、有志によって開催された『ビジネスライブラリアン講習会フォローアップ研修 in 多治見』は、東海地区におけるビジネス支援サービスの実践事例を実際に見ることができ、参加者にとって知見を広げるきっかけとなり大変有意義なものとなりました。